

[033]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/3054007>

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 33, pp.1-, 2020-03. 九州大学総合研究博物館
バージョン：
権利関係：



九州大学総合研究博物館 ニュース

No. 33

公開展示「博物の森へようこそ」を開催しました

ご注目ください。

総合研究博物館第8代館長 緒方 一夫





2019年度公開展示

博物の森へようこそ

谷澤 亜里 開示研究系・助教

期間 ● 2019年11月9日(土)・10日(日)・16日(土)・17日(日) / 場所 ● 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館 / 主催 ● 総合研究博物館

総合研究博物館の「公開展示」は、今年度で記念すべき第20回を迎えました。今年度は、昨年度に新たに整備した旧工学部本館内の収蔵展示をさらに多くの皆様楽しんで頂くため、11月の土日の合計4日間に開示室一般公開を行いました。

公開した開示室は、壁画の会議室、工学部列品室、工学系資料開示室、動物剥製標本開示室、動物骨格標本開示室、高壮吉鋳物標本開示室Ⅰ～Ⅲ、化石閲覧開示室、昆虫標本開示室、人骨資料開示室、植物標本開示室の12室。それぞれの開示室に、九大百年の歴史を通じて蓄積された貴重な標本・資料たちが収蔵展示されています。教員・学生による展示解説も好評でした。4日間で569名の皆様にご来場いただき、旧工学部本館は大いに賑わいました。

また、今回の公開展示では初の試みとして、特別企画「博物館地下探検」と題し、旧工学部本館地階のバックヤードツアーを行いました。地階では、玉泉館資料などの考古学関係資料の普段の収蔵状況をご覧いただいたほか、弥生時代の甕棺や、元岡・桑原遺跡群の製鉄遺構模型、人工降雨機など、これまでご覧いただく機会の少なかった大型の収蔵品たちもご紹介しました。ツアーには、4日

間で265名の皆様にご参加いただきました。特に後半の回では予想を上回る人数にご参加いただき、とても嬉しく思うと同時に、多くの皆様にゆっくりとツアーを楽しんでもらうための工夫の必要性を痛感しました。

なお、公開展示に合わせ、旧工学部本館の2階・3階の廊下をリニューアルしました。各開示室の場所が一目でわかるようなサインの設置、既存の展示への照明の追加、新たな展示ケースの設置など、本館内を見て回りやすくなるような工夫を試みています。新しく設置した展示ケースのいくつかは、歴史的什器を改造した特注品ですが、まるで最初からそこにあったかのように、本館の雰囲気にしっくりとなじみました。廊下の展示は、通常の開館日にもご覧いただけますので、今後も展示替えなどを行いながら、内容を充実させていきたいと考えています。

次回の開示室一般公開は、2020年5月の福岡ミュージアムウィークの時期を予定しています。また多くの皆様に、博物館に足を運んで頂ければと思います。

① リニューアルした廊下の様子

② 甕棺部屋にて

③ 博物館地下探検出発前の様子

特別展示

公開展示に伴う特別展示

「探求、博物の森—標本たちのこれまでとこれから」 「よりぬき玉泉館」 「うつわと九大 其の三」

谷澤 亜里 開示研究系・助教

期間 ● 2019年10月21日(月)～12月27日(金)(平日) / 2019年11月9日(土)・10日(日)・16日(土)・17日(日)

場所 ● 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館 / 主催 ● 総合研究博物館・九州大学埋蔵文化財調査室



公開展示の開催に合わせ、旧工学部本館では3本の特別展示を行いました。

まず、常設展示室では、「探究、博物の森—標本たちのこれまでとこれから—」と題し、当館教員8名がそれぞれ選んだ「イチ推し」標本を展示しました。展示室に集まった標本は、魚竜の化石、輝くコガネムシ、木製什器、ヒトの鎖骨、弥生時代の銅剣などなど。これらの標本・資料からどんなことがわかるのか、研究者の視点からご紹介しました。当館の収蔵する資料たちの幅広さと奥深さをお伝えできていれば幸いです。

また、本館2階・3階の廊下に新しく設置した展示コーナーで、「よりぬき玉泉館」・「うつわと九大 其の三」と題した考古学資料の展示を行いました。

「よりぬき玉泉館」では、旧制福岡高等学校教授・玉泉

大梁氏が歴史地理教育のために収集し、長らく六本松の「玉泉館」で収蔵されてきた資料たちを紹介しました。これらの資料は、六本松キャンパスの移転に伴い、現在は総合研究博物館に収蔵されています。今回の展示では、中山平次郎博士の採集した永岡遺跡出土弥生土器や、福岡市指定文化財の飯盛山瓦経などの重要資料を紹介しました。また、六本松時代の玉泉館を紹介するパネルの前では、多くの方々が足を止めて当時を懐かしむ姿が見受けられました。

「うつわと九大 其の三」は、九州大学埋蔵文化財調査室と共催し、九州大学キャンパス構内の発掘調査で出土した、大学オリジナル食器を紹介しました。当館と埋蔵文化財調査室は、これまでも大学食器にスポットを当てた展示を行ってきましたが、今回の展示では、農学部附属農場の牛乳瓶や、赤絵と金彩が施された高級な「九大醫院」食器など、最近の発掘での新発見資料が仲間入りしました。捨てられた急須や湯飲みなどから大学の歴史がわかるというのは、来館した皆様の目にも新鮮に映ったようでした。



① 探究、博物の森—標本たちのこれまでとこれから— 展示室の様子
② 農学部附属農場出土 牛乳瓶(左)と農学部出土の食器(右)

COLUMN①

高壮吉鉱物標本



旧工学部本館2階開示室の高壮吉標本は展示公開されている鉱物標本としては国内最高級の貴重なものです。当初、本部事務局2階に展示、1947年に工学部本館、1965年に理学部本館3階に移動したと記録されています。その後、1970年に理

学部本館4階の標本室、1994年旧法文系本館の1階北東の広い展示室に移設されました。2007年10月総合研究博物館第一分館の1階に、2015年7月総合研究博物館第三分館へ、2018年9月に旧工学部本館の2階に移動しました。半世紀ぶ

りにこの建物に戻ってきたことになります。私は後半の4回の引っ越しのお世話をしましたが、この3月に定年退職になります。今後は博物館の皆様へ維持管理を御願ひすることになります。よろしくお願いいたします。

上原 誠一郎 理学研究院・地球惑星科学部門・助教



九州大学総合研究博物館コレクション

音と旅する鉱物展

— ご来場ありがとうございました —

中西 哲也 分析技術開発系・准教授

期間 ● 2019年12月21日(土)～2020年1月26日(日) / 場所 ● 三菱地所アルティウム(イムズ 8F)

主催 ● 三菱地所、三菱地所アルティウム、西日本新聞社 AQA プロジェクト / 協力 ● 九州大学総合研究博物館 / サウンド・スケープ ● 原 摩利彦

2019年12月21日(土)～2020年1月26日(日)の期間、福岡市天神IMS 8階のアートギャラリー、三菱地所アルティウムにおいて「音と旅する鉱物展」が開催されました。九州大学が所蔵する約1万点の鉱物標本から約150点を選び、音楽家の原摩利彦氏が創作した音と併せて鑑賞してもらう、ユニークな試みでした。35日間の来場者は11,351人に達し、非常に好評でした。

原さんは、“フィールドレコーディング”の手法を用いて、日常生活や自然の中で採取した音を音源として作品創りを行います。今回の展示では、九大に二度足を運び、様々な鉱物を叩いて音の採取を試みました。

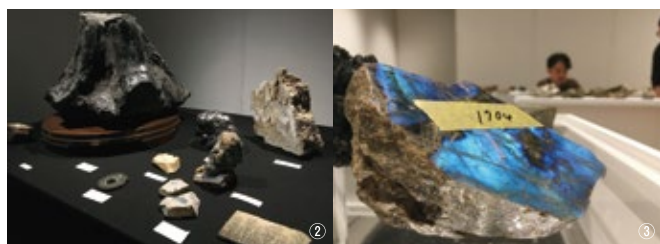
展示会場のRoom1では、九大理学部で使用していた標本棚に標本を配置して、大学博物館の雰囲気演出。Room2では、「珪化木」「隕鉄」「天河石」を展示し、それぞれ展示台の台座



に仕込んだ伝導スピーカーから鉱物標本に直接音を伝えて、鉱物そのものから音を響かせました。珪化木には水の滴る音、隕鉄には NASA が公開している恒星の煌めきを音に変換した音源などが使用されました。Room3では「時が止まった森」をテーマに、「松岩」や「シリカシンター」「模樹石」「縞状鉄鉱」「海底熱水のチムニー」等を重厚な低音とともに配置し、現在～数十

億年前の異なる時間を経た無機質な標本から生命を表現。Room4では、讃岐石の澄みわたる音を基調とした音の空間で、様々な色や形、輝きを持った鉱物標本を展示。親しみのある「水晶」や「メノウ」「トパーズ」、美しい「硫黄」の結晶、顔料に使用される「孔雀石」や「藍銅鉱」、金属光沢の「鏡鉄鉱」や「輝安鉱」。独特の光彩を放つ「ラブラドライト」も好評でした。

キャプションや説明文の情報をなるべく減らし、鑑賞者のこころを「音」と「鉱物」に投影しようとした今回の試みは、アートギャラリーならではの、普段、鉱物標本について学術的な解説をしがちな筆者にとっても、非常に新鮮なものでした。期間中、何度も会場を訪れる方も多かったと聞いています。展示開催に関わられた皆様、ご来場者の皆様、本当にありがとうございました。



① Room1 / ② Room2 / ③ Room3

COLUMN②

粕屋西小学校の課外授業

前田 晴良 分析技術開発系・教授



2020年1月18日(土)、粕屋町立粕屋西小学校の課外授業を「化石閲覧展示室」を起点にして開きました。あいにくの雨にもかかわらず、当日は同小学校の教員・生徒・保護者合わせて37名が来館され、世界各地から集めたアンモナイト化石や恐竜の歯化石の実物に手を触れながら熱心に話を聞いていました(写真)。また、昆虫学専攻の今田舜介さん(九大・農・

大学院生)が応援に駆けつけてくれたおかげで、昆虫や動物骨格の展示も公開することができました。手応えは上々で、今後も続けたいと思います。

展示は決して派手ではありませんが、「標本・資料を研究している本人から直接話を聞ける」という点こそ、大学博物館の持つ重要なアドバンテージなのではないかと思っています。

文学部 AQA プロジェクトとの共催展示

「とはすかたり—学舎の肖像—」展

大学の“小さな歴史”を語る試み

後小路 雅弘 人文科学研究院・教授

期間 ● 2019年9月14日(土)～10月9日(水) / 場所 ● 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館 1 階
主催 ● 九州大学文書館 九州大学総合研究博物館 AQA プロジェクト / 展示企画構成 ● 鈴木淳、九州大学 AQA プロジェクト



箱崎キャンパスの旧工学部本館の一画で、「とはすかたり—学舎の肖像—」という展覧会を企画開催した。展覧会の企画構成は、文学部のAQAプロジェクトと現代美術家、鈴木淳によるものである。

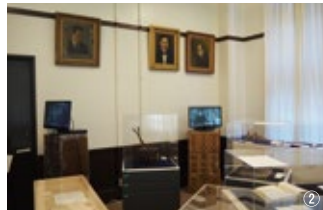
企画の発端は、文系学部の新キャンパスへの移転を間近に控えた2018年の4月に遡る。

キャンパス移転に際し、なにか意味の

ある展覧会を開きたいと考えていた私には、ひとつのイメージがあった。それは、移転を終えてだれもいなくなった廃墟のような文学部の校舎の教員室に、かつての住人のくぐもった声が響いている、というものだった。まるで地霊の声のように、それは箱崎キャンパスの歴史を、それも「大学史」のような正史としては語られることのない、個人の経験による「小さな歴史」を、語る。そのイメージは、文学部歴史編纂室の賛同を得て、私の指導するAQAプロジェクトの企画展として、紆余曲折を

経ながらも、2019年2月に椎木講堂ギャラリーを会場に「とはすかたり—文学部の肖像—」展として実現することができた。

この展覧会を受け継ぐ形で、「とはすかたり—学舎の肖像—」展は企画された。今回は、文学部の枠を越えて、大学文書館と総合研究博物館とのコラボを意識し、両館の先生方がそれぞれ愛着のあるモノにインタビューをするという鈴木淳の映像作品をあらたに加え、さらにその「愛着のあるモノ」も展示作品に加えた。また、博物館が取り組んでいる箱崎キャンパスに残された古い什器の再生プロジェクトを利用して、鈴木淳が什器を組み上げたインスタレーションを作り上げた。



全体として、旧工学部本館を会場にしたことで、その場所に固有の、積み重ねられた時間と空間が展示に独特の深みを与え、視覚的なひとつの

物語を紡ぎ出だしていた。そこでは、たしかに箱崎キャンパスにおける「小さな歴史」を語る地霊たちのくぐもった声を聴くことができた。

- ① 歴史的什器を使ったインスタレーション
- ② 展示室の様子
- ③ 三島准教授のインタビュー

COLUMN③

重要文化財指定庚寅銘大刀レプリカの展示

岩永 省三 一次資料研究系・教授

岩永が、博物館業務に加えて整備・公開に関わってきた伊都キャンパスのイースト1号館9階の石ヶ原古墳跡展望展示室に、2020年3月から重要な展示物が加わります。1991年6月に、キャンパス西南隅にある元岡古墳群G6号墳から出土した庚寅銘大刀のレプリカです。この大刀の脊には「大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀凡十二果□」という文字が金象嵌で施され、刀を作った

年の干支は、西暦570年に当たります。古墳時代の銘文を施す刀剣は全国で9点、記年銘を持つものは4点しかなく、極めて学術的価値が高いことから、2019年3月に国の重要文化財に指定されました(福岡市所蔵)。この大刀のレプリカを常設展示することで、伊都キャンパス内遺跡や出土品の歴史的重要性をさらに深く知って頂けるでしょう。



研究紹介

救済什器の保存と活用に関する 基礎および実践研究の紹介

三島 美佐子 開示研究系・准教授



①



②

九州大学で使われてきた歴史的什器の救済・保存に取り組みはじめてから、約10年が経とうとしています。箱崎から伊都へのキャンパス移転や近年の建物建て替えの過程で、戦前に導入された木製家具をはじめとして、多数の什器類が更新されることとなり、廃棄されるものも多数ありました。しかしそのような什器は、本学百年の歴史を物語る証拠となる教育資料でありかつ文化資源であり、現在の日本の木材の材質では作り得ないような質の高いものも含まれています。

このような歴史的什器を救済(レスキュー)し修繕(リペア)して再利用するなど「歴史的什器保全再生活用プロジェクト」を、当館と農学部が中心となり地道に続けてきました。箱崎地区の旧工学部本館を訪れたことのある方は、廊下に並ぶ重厚な標本棚や、各開示室のレトロな家具たちを思い出していただけることと思います。伊都キャンパスにおいても、ウェスト5号館(農学部)1、2階に新設された標本室2室で、これらの什器が活躍しています。

救済当初はひたすら「もったいない」という感傷的な理由に突き動かされて拾い集めてきていましたが、時を経るごとに、その様相は変わっていきました。そのきっかけはまず、リペアを依頼した大川家具の家具職人さんが、戦前の教授用両袖机の解体・修繕を経て、当時の技術が非常に勉強になるとして、大川リペア協議会を発足させたこと。そしてさらには、2015年に家具史の専門家により外部評価をいただき、その客観的な学術的視点から、収集した木製家具類の希少性・重要性が認められたことです。技術者・研究者双方からの意義づけがあったことにより、ただ「もったいない」だけでなく、より技術的・学術的な視点に基づきさらなる収集・保管・調査をすすめることにし、その利活用に関する実践研究にも取り組むようになりました。

2018年度から2ヶ年度の研究計画がトヨタ財団研究助成に採択され、家具史的な基礎研究と、いかにその救済された歴史的什器を活用していくかという実践研究をすすめています。トヨタ

財団研究助成による「社会の新たな価値の創出をめざして」という共通課題に即して、最終的には、大学をはじめとする官公庁などにおける備品更新のあり方や、古いモノの活用のあり方について、新たな提案をしていくことを目指しています。近代建造物は、文化財として保存されたり、リノベーションして再活用されたりするのに対し、そこで暮らしをともして来た近代の「モノ」たちは、ゴミまたは流通品として散逸する傾向にあることにも、再考を呈したいと考えています。

特に、救済した歴史的什器を、“活用文化資源”として在野*で使い続けながら保存し次世代に継承する「在野保存」を提唱し、その考え方や仕組みについて、社会実験を通して実践的に検証することを試みています。現在は、在野保存モニタリングとして、公共施設2件、店舗3件、個人3件での試験的な貸し出しを実施しています。

公共施設2件では、福岡市科学館4階の「サイエンス&クリエイティブ工房」の机3台、マリンワールド海の中道2階エントランスホールの新展示ゾーン『ほねのおと～HONE NOTE～』での書棚3台が活躍中です。福岡市科学館では、樹脂コーティング加工により、新しい施設の中でもしっくりと馴染んだ状態です。また、マリンワールドさんでは、魚たちの骨格標本が並ぶ素敵なフロア展示の一角で、書棚がかっこいい展示台として改変・活用されています。

店舗4件はいずれも書店機能を持つカフェで、在野保存第一号となった熊本の橙書店さん、猫専門ショップの吾輩堂さん、そして昨年12月に北九州市下道津にオープンした魚部カフェ「パイオフィリア」です。いずれもとても素敵な店舗となっており、当館什器が大活躍中です。これら3件の店舗事例の共通点は、造作を担う工務店さんが什器選定の段階から同行され、当館の救済什器を使うことを前提として店舗の雰囲気や内部の配置が構想されている、という点です。つまり、什器から空間を立ち上げるようなプロセスを経て、店舗内部が作られているのです。それ

それぞれの店舗は、お互いを参考に
してそのようにしていたわけでは
なく結果的にそのようになった、
という状況です。つまり、それだ
け九大歴史的什器が持つ力と存在
自体が、店主さんの空間作りの
発想や、店舗空間の構成に
大きく影響している、ということ
であるといえます。このようなプ
ロセスは、“こうしたい”という
雰囲気や配置のイメージがあり、
それに合わせてインテリアが選
択されていく一般的な店舗づくり
とは、逆のように思えます。今
回の店舗のように「モノ」から
空間が立ち上げられるのは、
むしろ博物館展示では普通であ
り、それに似ているかもしれませ
ん。このことは、空間に「良さ」
が生まれるの、どのような要素
やプロセスが関与しているのか
ということを考えるうえでも、
非常に参考になりそうです。今
後は、利用者の行動観察や発
話調査・アンケート調査なども
予定しており、この社会実験
の成果が楽しみなところです。

本研究の一環として現在、うきは市吉井町生業にある旧家具



製造工場跡を再生し、「うきはモノと文化の実験場」として広く利
活用できる場を創出するプロジェクトを進めています。1階は当館
の家具収蔵庫を兼ねた“創作工房”や“本の蔵”に、2階は市民
のみなさんがワークショップや催しができる集いの場として、そ
れぞれ雰囲気のある空間づくりを試みています。うきは市さん
のご支援をいただきつつ、市民参加型の「DIY ワークショップ」と
して修繕作業や整備を進め、この春の完成を予定しています。

以上、キャンパス移転をきっかけに始まった什器救済から、日
本の家具史研究へ、そして社会意識を変えることにつながるこ
れまで誰も試みた事がない実践研究が、展開されつつあります。
今後、基礎研究と実践研究を両輪にした研究成果を、より広い
社会や地域の課題解決につなげていきたいと思っています。

*「在野」とは、官公庁ではなく民間、という意味あい使われる言葉ですが、
本研究では、自分自身に近い感覚である世間一般や一般家庭のような意
味合いも含めて使っています。

① ② 九大の救済家具には、戦後製造されなくなった、寿商店（現・コトブキシーテ
ィング株式会社）製の卓子が多数含まれている。写真は、戦前のカタログに掲載
されていた特許両袖机と、実際に回収された上置き棚付きの現物完品（三島
2019 デザイン学会特集号 27:18-29 より）。

③ トヨタ財団助成研究において、木製什器調査のために英国を訪問。写真はオッ
クスフォード大学科学史博物館の地階展示室で用いられている木製什器。

《催事予告》

福岡ミュージアムウィーク 2020 関連イベント

「開示室一般公開」

期間 ● 5月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日) / 開館時間 ● 10:00-16:00

会場 ● 箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館 壁画の会議室 / 工学部列品室 / 工学系資料開示室 / 動物剥製標本開示室 / 動物骨格標本開示室 / 高辻吉鉦物標本開示室Ⅰ～Ⅲ / 化石閲覧開示室 / 昆虫標本開示室 / 人骨資料開示室 / 植物資料開示室

『地質の日』記念企画 「前田晴良教授による解説—化石化のメカニズムを探る—」

期間 ● 5月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日) 随時

会場 ● 箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館 化石閲覧開示室

九州大学総合研究博物館 2020 年度公開展示

九州大学総合研究博物館 × 大野城心のふるさと館連携企画 夏の特別展

「きゅーだいのすっごいお宝、みつけた! —『知』のワンダーランドへようこそ—展」(仮)

期間 ● 2020年7月18日(土)～9月6日(日) / 会場 ● 大野城 心のふるさと館

展示内容(予定) ● 宝の山へようこそ / 帝大教授の研究室 / こんなものまで考古学 / 科学の基礎は観察から / 鉱山の秘密 / 植物の世界 / 骨からみた動物の体 / 博物の森へようこそ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため今後の予定が変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

COLUMN④

台湾の大学からのご来訪

三島 美佐子 開示研究系・准教授



去年の10月、台湾師範大学の皆様が、周年事業の
先例視察のために来日、当館と文書館を視察されま
した。その2ヶ月後には、本学主催のNTUコロキウム
による招聘で、台湾大学博物館の胡教授と自校史館
の張職員が来館。この2月には台湾大学医学部の
盧國賢教授が、学生さんらとともに来館されました。
今後の更なる交流・共同研究が楽しみです!

① 台湾師範大学の皆様と ② 列品室見学の様子



展示・講演会関係の活動状況

Activities of Exhibitions & Conferences

公開展示

- 「博物の森へようこそ」
期間○令和元年11月9日(土)・10日(日)・16日(土)・17日(日)
場所○九州大学 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館
主催○総合研究博物館

特別展示

- 「探究・博物の森―標本たちのこれまでとこれから―」
同時開催
「よりぬき玉泉館」
「うつわと九大Ⅱ」
期間○令和元年10月21日(月)～12月27日(金)(平日)
令和元年11月9日(土)・10日(日)・16日(土)・17日(日)
会場○九州大学 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館
主催○総合研究博物館・九州大学埋蔵文化財調査室

ラジオ・テレビ出演

- NHK ラジオ第一放送とNHK ワールド・ラジオ日本
「冬休み子ども科学電話相談」
「冬休み子ども科学電話相談「昆虫」スペシャル」
(丸山宗利准教授)
令和元年12月27日・28日、2年1月4日
- KBC 九州朝日放送
「アサデス 九州・山口 おす道」
(前田晴良教授)
令和元年12月23日、2年1月13日(再放送)

サテライト展示

- 福岡県の蝶9
期間○平成28年3月17日(金)～継続中
場所○糸島市図書館二丈館

協力

- 「音と旅する鉱物展 九州大学総合研究博物館コレクション」
期間○令和元年12月21日～2年1月26日
場所○三菱地所アルティアム(イムズ 8F)
主催○三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社
後援○福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団
協力○九州大学総合研究博物館
サウンド・スケープ○原摩利彦
企画協力・音源制作○MH Studio Inc.
機材協力○night cruising

- 放送大学面接授業(スクーリング)大学博物館への招待4
(岩永省三教授 前田晴良教授 中西哲也准教授 三島美佐子准教授
丸山宗利准教授 米元史織助教)
期間○令和2年1月11日(土)、1月12日(日)
場所○九州大学 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館

博物館施設一般公開

- 公開展示「博物の森へようこそ」に伴う施設一般公開
期間○11月9日(土)・10日(日)・16日(土)・17日(日)
場所○九州大学総合研究博物館常設展示室、各開示室、4階
会議室、列品室、博物館地階(解説つき見学ツアー)

その他の活動状況

Others

運営委員会

令和元年11月22日(書面)

団体見学

令和元年9月23日(月) 日本鉱物科学会 20名
令和元年10月2日(水) 工学部生産機械工学科一期生 11名
令和元年10月4日(金) ぐりんぐりん古賀 23名
令和元年10月24日(木) 北九州市立上津役小学校PTA 40名
令和元年10月29日(火) 台湾師範大学 14名
令和2年1月8日(水) NPO 法人福祉グループほむら 8名
令和2年1月18日(土) 粕屋西小学校生徒 30名
令和2年2月3日(月) 筑紫野市美咲子供会 25名

▶ 総合研究博物館では、『博物館活動充実基金』として皆様からのご寄付を受け付けています。

手続きの流れ

1. 当館 HP に掲載の寄附申込書(博物館活動充実基金用)にご記入ください。
2. 事前に博物館事務室までご連絡頂ければ、申込書記入内容の確認をいたします。
3. 寄附申込書原本を、博物館事務室までご郵送願います。
4. 入金依頼書をお送りいたしますので、同封の振込用紙により納入してください。
5. 入金確認後に、御礼状と「寄付金領収書」をお送りさせていただきます。寄付金領収書は税法上の優遇措置に必要ですので、確定申告まで保管して下さい。

※当基金への寄付金は、所得税、法人税、相続税、住民税(自治体により異なります)の優遇措置をうけることができます。

詳細は当館ホームページもご参照ください。

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>

お問い合わせ先：総合研究博物館事務室／電話 ●092-642-4252／メール ●office@museum.kyushu-u.ac.jp

九大博 充実基金

